

編集後記

2022 年度より同窓会幹事に加わりました岸本展です。いつからか同窓会誌の編集委員という肩書もついておりました。これまでは原稿の校正を多少お手伝いする程度だったところ、この度初めて編集後記を任されてしまい、僅か 1 ページの原稿を書くのに大変な思いをしております。本編をご寄稿くださった皆様には改めて心よりお礼申し上げたく存じます。お陰様で同窓会誌 9 号を無事お届けできる運びとなりました。

私は年に数回ほど海外出張へ行きます。異国の独特な雰囲気や珍しい食べ物に出会うのは好きですが、ここに住んでみたいと思った国はまだありません。住み慣れた日本の良さを再認識できたところで帰ってきます。ちょうど先週、カザフスタンの首都アスタナで学会があり、中央アジアの国を初めて訪れました。カザフスタンと聞くと、数ある〇〇スタンの一つで何となく「あのへん」にあるのはわかるけど…ロシアに近そうだけど安全なのか？…という感想を持たれる方が多いかもしれません。私もそうでしたが、行ってみると想像したより近代的で安全かつ清潔なところでした。カザフスタンで感じたことを編集後記に書こうと、先週までは考えておりました。ところが、続きで今週は北京へ出張しておりまして、いろいろと考えさせられることが多く先週のことがよく思い出せません。ここからは予定を変更して今週のことを書きます。

中国へ来るといつも「熱烈歓迎」を受けます。特に今回は学会ではなく個人的に招待を受けたので、それはもうものすごい歓迎ぶりです。ただ、親切にされた結果かえって困ってしまうことが少なくありませんでした。一番困ったのは食事です。私を呼んでくれた人が昼・夜と連れて行ってくれて、食事代は全部払ってくれます。いくつか料理を注文し、これで充分ではないかと言うと、遠慮することはない、先生はもっと食べられるでしょう、これも是非試してほしい、と次々に追加します。もちろん最初ので十分な量なのです。もうお腹いっぱいだと言っているのにメニューを見せてきて、少しでも興味を示したら即注文です。毎食お腹をパンパンにされて、こちらは苦しいばかりなのですが、果たしてこれが彼の目指している理想のおもてなしだったのでしょうか…。他にも例を挙げると、日本から持参した菓子の箱より大きな箱のお土産を渡されてスーツケースへ仕舞うのに四苦八苦したり、講演の謝礼金として札束をくれるけどそれを消費する機会はくれなかったり。心からもてなそうとしてくれているのは間違いないのですが、こちらが遠慮とかではなくて本当に困っているということをなかなか伝えられずに苦労しました。

もっとも、日本人は逆に相手が迷惑するのではないかと考えすぎる結果何もしない、という傾向がある気はします。彼も日本へ来たら内心不満に思うのかもしれませんが。なかなか難しい問題ですが、根気強く訴えたところ滞在中最後の夕食の時にはあまり無理に勧めないようにしてくれました。やはりちゃんと話し合っ乗り越えるのが大事ですね。

2025 年 8 月

岸本 展